

## 2021 年度新聞学研究所事業報告

### ○共同研究プロジェクト

「デジタル化社会の進展における現代日本のジャーナリズムの変容に関する研究」

研究代表者 佐幸 信介（日本大学法学部新聞学科教授）  
 研究分担者 中 正樹（日本大学法学部新聞学科准教授）  
 山口 仁（日本大学法学部新聞学科准教授）  
 三谷 文栄（日本大学法学部新聞学科准教授）  
 大井 眞二（日本大学法学部新聞学科非常勤講師）

### 研究の概要

本共同研究は、2000年代以降のデジタル化の進展によって変容している、メディア環境とジャーナリズム実践との関連を、ジャーナリストの意識と行動に焦点をあてた調査研究である。民主主義社会にとってジャーナリズムの役割の重要性をあらためて問い直すという、理念的な目的がこの調査研究の基底にある。その際にジャーナリストを対象とした調査をすることの企図は、ジャーナリズム研究が現場のジャーナリズム実践に寄与しているのか、相互の有機的な関係は何か、すなわち研究の自律性とジャーナリズムの自律性との関係を、調査という手法を通して通時的かつ共時的な比較軸を介在させながら検討するところにある。

ジャーナリスト調査（数量調査）は、これまで日本大学新聞学研究所では2007年と2013年にジャーナリストを対象とした数量調査を実施してきた。また、2013年調査からWJS（worlds of journalism studies）と連携するなかで調査研究を進めている。さらに2022年秋に、第3回目の日大新聞研調査を計画している。

今年度は、数量調査の実施にむけて、①WJSの調査フレームおよび調査案の検討、②日大が実施した調査も含め、戦後に行われてきたいくつものジャーナリスト調査の検証、③新聞および放送に携わるジャーナリストへの聞き取り調査、④シンポジウムを通じた調査の意義と調査フレームについての研究者およびジャーナリストとの議論のテーブルの開設といった研究事業を実施してきた。

これまでジャーナリズム活動はマスメディア型のニュースメディアと一体となってきたが、この前提の揺らぎは、ジャーナリズム実践の現場で具体的に表出する。それは、報道機関の労働スタイルの変容や労働市場の流動化と、編集の自律性を支えるメディア—経営の次元が直結する状態として、ジャーナリストによって語られる。報道と編集のシステム、つまりニュース生産・発信のシステムがソーシャルメディアの登場や、ニュース・情報の受容・共有のスタイルが変容するなかで、ニュースそのものの、ジャーナリズムおよびジャーナリストの再定義が問われているということが出来る。

2022年度の数量調査の実施を見越した事業の積み重ねのなかで明らかになった課題のひとつは、数量調査を行うことの難しさという問題である。この課題は、調査の技術的な要因以上に、現在のニュースメディアの変容が、先述したジャーナリストの再定義の問題と密接にかかわってくるからである。こうした課題も含め、学会の場での議論の共有、メディアの種差性や地域性、ジャーナリストの年代といった変数に留意した聞き取り調査など進めている。

#### 「テレビ番組の映像資料を利用した「多様性」等に関する研究」

研究代表者 米倉 律（日本大学法学部新聞学科教授）  
柴田 秀一（日本大学法学部新聞学科教授）  
笹田 佳宏（日本大学法学部新聞学科准教授）  
山口 仁（日本大学法学部新聞学科准教授）  
三谷 文栄（日本大学法学部新聞学科准教授）

#### 研究の概要

本共同研究は2011年3月11日に発生した東日本大震災後のテレビ放送の報道内容を分析し、災害時におけるニュース報道及びほかの関連する映像情報を量的、質的両面から研究する上で必要な基盤整備としてのデータベース構築を目的として、2013年度からその研究を始めた。

2011年3月11日の発災から今日に至るまで、東京キー局（6局）のテレビ映像をJCCのMaxChannelを使用して録画・保存を行っている。これら映像データは東日本大震災という未曾有の危機を保存した価値のみだけではなく、その後のテレビ映像も長期間データとして保存していることに、今後のジャーナリズム研究及びマスコミュニケーション研究の分野にとって大きな価値を持つと考えられる。本研究では、これまで①映像データ保存とニュース及びその他の関連する映像情報の分類をはじめとするデータベース構築のための作業を行い、その上で、②報道内容の質的、量的分析を行い、こうした研究成果の一部は本研究所シンポジウムにおいて公表してきた。

2020年4月、大学の情報システムがWindows7対応からWindows10対応に変更されたことに伴い、録画・保存システムの大幅な変更を行った。従来は、Windows7対応のMaxChannel3台で録画を行っていたが、これをWindows10対応のMaxChannel2台に集約した。また、従来は、MaxChannelに録画したテレビ映像をHDDに保存していたが、新システムでは本学のクラウド上に保存することとした。また、HDDに保存していた番組データを順次、クラウドにアップする予定であったが、コロナ禍の影響で本年度は実施できなかった。

クラウドにアップしたことにより、2020年度4月以降のテレビ映像は、より多くの研究者が使用できるようになった。また、昨年度から、大学院生の研究や研究指導部門で番組アーカイブを活用してきたが、本年度からはクラウド上にテレビ映像をアップしたことで、大学院での授業、学部のゼミナール研究などで番組アーカイブを使用するなど活用幅が広がった。

2021年度には研究プロジェクト「東日本大震災関連テレビ報道10年の検証～映像アーカイブ

を用いた時系列分析」をスタートさせて（「法学部共同研究」「放送文化基金助成金」）震災の発災から現在までの10年間にわたる震災テレビ報道の内容、傾向、課題等についてより詳細に検証する作業を進めている。

## ○研究指導

日本大学新聞学研究所は、2011年3月からテレビ番組のアーカイブ事業に取り組んでおり、毎年2回、アーカイブを活用し、大学院生が論文を執筆するうえで必要となるメディア分析の手法に関する講義を実施してきた。2021年度の第1回は慶應義塾大学の烏谷昌幸先生にパラリンピックの映像に関する分析手法について教授いただいた。2021年度の第2回は相模女子大学の塚田修一先生にそれぞれアイドル・オーディション番組の分析手法を教授いただいた。

### 第1回

「パラリンピックの映像分析—コロナ時代のパラリンピックの表象—」

講 師 烏谷 昌幸（慶應義塾大学法学部教授）

実施日 2021年7月26日（月）・9月6日（月）

### 第2回

「アイドル・オーディション番組の分析実践」

講 師 塚田 修一（相模女子大学学芸学部専任講師）

実施日 2022年3月1日（火）・3月22日（火）

## ○シンポジウム

テ ー マ 震災10年、テレビ報道は震災をどう伝えてきたか～震災映像アーカイブを用いた分析から①

主 催 日本大学法学部新聞学研究所

日 時 2021年10月30日（土）14時00分～16時30分

場 所 Zoomによるオンラインでの開催

プログラム

第1部 研究報告 14時00分～15時00分

第2部 パネルディスカッション 15時10分～16時30分

登壇者

丸 淳也（福島中央テレビ・経営企画部長）

寺島 英弥（ローカル・ジャーナリスト、元河北新報・論説委員）

古澤 健（NHK高知放送局副部長）

山口 仁（日本大学法学部准教授）

## 司会

柴田 秀一（日本大学法学部教授）

テ ー マ 日本のジャーナリストの過去・現在・未来～ジャーナリスト調査が問いかけたこと、新たに問うこと～

主 催 日本大学法学部新聞学研究所

日 時 2022年1月22日（土）14時00分～16時30分

場 所 Zoomによるオンラインでの開催

## プログラム

第1部 プロジェクトの概要・目的・挨拶  
 問題提起1：調査のクリティカルレビュー  
 問題提起2：調査とジャーナリズム研究

第2部 パネルディスカッション

## 登壇者

山口 仁（日本大学法学部准教授）

大井 眞二（日本大学法学部）

水野 泰志（メディア激動研究所代表・元東京新聞編集委員）

笹田 佳宏（日本大学法学部准教授）

中 正樹（日本大学法学部准教授）

## 司会

佐幸 信介（日本大学法学部教授）

## ○研究会

「アフガニスタン情勢にみるイスラム報道の問題点」

報 告 内藤 正典（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授）

開催日時 2021年10月21日（木）18時30分～

場 所 Zoomによるオンライン開催

「「アイドル」を学術的に研究するとは」

報 告 田島 悠来（帝京大学文学部社会学科講師）

開催日時 2021年11月25日（木）18時00分～

場 所 Zoomによるオンライン開催

「人々のリスク回避的な態度とメディア接触がもたらすCOVID-19感染予防の意思決定～COVID-19と政治意識に関するアンケート調査データ分析～」

報 告 山田 尚武（日本大学法学部新聞学研究所研究員）

開催日時 2021年12月2日（木）18時00分～

場 所 Zoom によるオンライン開催

「#Me Too ～メディアで働く私たちが「白書」を出した理由」

報 告 佐藤 直子（東京新聞・論説委員／メディアで働く女性ネットワーク・世話人）

開催日時 2021年12月16日（木）18時00分～

場 所 Zoom によるオンライン開催